

## 令和7年度 我が校の学ぶ力向上策

### 【市町 目標】

○一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育を実践する。

### 【学校 目標】

○自尊感情という学びの土台を育み、基礎基本の徹底や学び合いの充実によって生まれてくる「なりたい自分」を実現するために「自分から学んでいく力」を高める。

### 【現状と課題】

- 視点1 (1) 田上小スタンダードが徐々に定着し、田上小としての授業スタイルが確立してきた。  
(2) 「ICT」を活用して学びの土台に乗ることができてきた。基礎基本の定着の活用に個人差がある。
- 視点2 ・クラス会議やライフスキルを高める取り組みを通して、学びを支える学習集団づくりができてきた。  
・ペア学習やグループ学習を実践して、学び合いの素地を高めていく。
- 視点3 職員みんなで子どもの話を共有することを目指した「きら丸タイム」が定着し、子どもを中心に置いて学校全体が一丸となって取り組んでいる。

### 取組事項および評価指標

※評価：【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目：9月 2回目：2月】  
※達成状況の割合(%)は、目標数値に対しての達成状況の割合です。

【視点1】子どもたちが主体の授業づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①「田上小スタンダード」をもとにした授業づくり ・田上小スタンダードを共通実践し、「なりたい自分」が生まれる授業づくりをめざす。特に子どもが主体的に取り組める手立てを模索していく。 ②「ICT」を活用した基礎基本の定着 ・ライブラリーを活用した基礎基本の徹底や視覚支援によって、誰もが学びの土台にのった状態から学びを深めていけるようにする。	①「全国学力・学習状況調査」の質問紙(34)「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた」、学校評価児童アンケートの「3.学校の授業はわかりやすい」「11.学校は、勉強がわかりやすいように、工夫して教えている」。		
	②「全国学力・学習状況調査」の質問紙(30-1)「ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」。		

【視点2】学びを支え合う集団づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①「クラス会議」の実践の継続・充実 クラス会議を週2回以上実施して、教師の関わり方をレベルアップしていく。子どもの所属感や安心感を高め、認め合える集団づくりを推進する。 ②学び合いの基本となる「ペア学習」のレベルアップ 子どもたちの人間関係力向上の取り組みと並行して「ペア学習」を授業の中に頻繁に取り入れ、子ども同士の関わりによって学ぶ意欲を高めていけるようにする。	①「全国学力・学習状況調査」の質問紙(5)「自分には、よいところがあると思う」、同(12)「学校に行くのは楽しいと思う」、学校評価児童アンケートの「1.学校は楽しい」「5.自分には良いところがある」。		
	②「全国学力・学習状況調査」の質問紙(13)「自分と違う意見について考えるのは楽しい」、同(14)「友達関係に満足している」、学校評価児童アンケート「6.学校は、友達と支えあったり、協力することの大切さを教えている」。		

【視点3】協働して取り組む学校づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
①「きら丸タイム」による共通理解と共通実践 情報共有・共通理解・共通実践が行えるように、「きら丸タイム」を継続して取り組んでいく。 ②ICT活用によって時間を確保し、指導力向上へ 校務、学習指導の両面で、ICT活用を進め校務の効率化を図る。また、「OJT研修」を充実させ教師の指導力向上を目指す。	①「全国学力・学習状況調査」の質問紙(6)「先生は、あなたのおよところを認めてくれていると思う」、同(10)「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」、学校評価児童アンケートの「2.困ったことがあれば、先生に相談できている」、「10.学校は、子どもたち一人ひとりを大切にしている」。		
	②「全国学力・学習状況調査」の質問紙(34)「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた」、学校評価児童アンケートの「3.学校の授業はわかりやすい」「11.学校は、勉強がわかりやすいように、工夫して教えている」。		

◇「学ぶ力向上策」の実効性を高めるために、いつ、どのように職員全体で共通理解を図り、共通実践し、検証・改善していくのか、時期や手立て等を記載してください。

- ・4月の改善部会で学ぶ力向上推進リーダーが「学ぶ力向上策」について説明するとともに、それぞれの取組事項に対する具体的な内容について協議する。また、取組事項は学校だよりで保護者や地域に発信する。
- ・全員で取り組む具体的な内容について共通理解し、視点1については研究主任と一人一台端末等活用推進リーダー、視点2については生徒指導主任、視点3については教務主任、OJT推進リーダーが中心となって、組織的に実践につなげる。
- ・定例職員会議では、取組の状況等を共有し、2月の学校評価や、全国学力・学習調査等の調査における数値や意見等をもとに、改善策について(改善部会、研究推進部、OJTグループ、教科部会等)で話し合っていく。
- ・5月の職員会議では、取組事項を共有し、7月の職員会議で学ぶ力向上策の1学期の成果と課題を検討、後半の取組につなげる。また、それぞれの取組事項に対する中間評価結果を学校だよりで保護者や地域に発信する。

### 今年度の取組の成果と課題

--